

(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	国道144号					
事業毎の通番		24	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	真田～本原(さなだ～もとはら)				
事業概要	事業目的	当路線は群馬県と長野県を繋ぐ路線であり上信越自動車道と観光地である菅平高原を繋ぐ路線でもあります。真田工区については、歩道内にバス停が設置されているがバスの待避スペースが確保されていないため停車時に通行の妨げになっているため、停車帯の整備が必要です。本原工区については、交差点部に右折レーンが無いため右折車があるたびに渋滞が発生しているため、右折レーンの整備が必要です。本事業により、円滑な交通を確保するため平成27年度の交付金の新規事業として要望したい。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律					
	関連する事業、計画等	なし								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	現況交通量 10,279台/日								
	着手年度	平成27年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成29年度	費用対効果	-	国庫	39,000	其他	23,400	一般財源	2,600
	全体事業内容(主な工種)	交差点改良 2箇所 バス停設置 1箇所			65,000	39,000		23,400	2,600	
年度事業内容(主な工種)	測量・設計 1式 本工事 1式			27,638	16,583		9,950	1,105		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	右折レーン設置による渋滞の緩和 バス停車時の無理な追い越しによる交通事故の抑制が期待される。								
	間接的効果(定量的・定性的)	観光客の増加と安全確保 通行車両の交通事故抑制								
評価の視点	必要性	【交通量】現況自動車交通量:13,363台/日 【交通量】現況自転車歩行者交通量は78台・人/12h				評価 A				
	重要性	【位置付け】関連計画、重点施策との整合:C:整合なし 【位置付け】緊急輸送道路の路線指定:A:1次輸送路				評価 B				
	効率性	事業期間:2年(H27～H28)				評価 A				
	緊急性	【安全確保】近年の交通事故件数:C:事故なし 【生活環境】通学路対策:C:通学路指定なし 【道路構造】現況の歩道幅員:C:2.0以上の歩道あり				評価 C				
	計画熟度	【情報共有】事業情報の共有:B:関係者を中心に周知 【地域要望】地域の取り組み:B:協力的である(地域住民や市町村から事業計画に対して要望あり) 【地域合意】地域の合意形成:B:事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】住民との協働:C:住民関与が低い事業				評価 C				
	部意見	交通量も多いため、渋滞が発生している交差点であり、安全な交通空間の確保のため、早期の改良が必要である。	行政改革課意見	必要性が認められる。	評価結果	総合評価 O B				

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景  
当路線は群馬県と長野県を繋ぐ路線であり上信越自動車道と観光地である菅平高原を繋ぐ路線でもあります。夏は避暑地である菅平を目指す観光客やスポーツ選手の合宿、高原野菜を出荷する運搬車両など、冬はスキーなどのウインタースポーツと1年を通して通過車両も多い路線である。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり  
住宅化が進行し、右折レーンの無い交差点で渋滞が目立つようになってきた。また、H28年1月から始まるNHK大河ドラマ【真田丸】で観光客の増加も予想されるため、上田市としても対応を求められている。

③事業説明等の経緯  
未実施

④他事業・プロジェクトとの整合、関連  
特になし

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮  
構造物を利用し用地の買収面積を少なくする。現地の景観に配慮し、景色に影響が無いように極力配慮する。

⑥地域活性化への影響と配慮  
市役所と連携し、住民の意見を聞きながら計画策定していきたい。

⑦その他  
特になし

事業代表地点の緯度経度	北緯:N	36.32.08
	東経:E	138.20.29